

2024 年 5 月 29 日

学校法人三幸学園
広島リゾート&スポーツ専門学校
校長 大原 隆 殿

学校関係者評価委員会
委員長 森下 圭

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 田原 志乃 (有限会社マリエフィットネスサポート)
- ② 大賀 春樹 (第6期 卒業生)
- ③ 森下 圭 (飛鳥未来高等学校 広島キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 5 月 29 日 (会場 広島リゾート&スポーツ専門学校 301 教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 広島リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 清 洋介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 森下 圭

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2023年度は、「全ては生徒のために」をもとに「徹底・継続・やりきる意識と覚悟を持つこと」を教職員のテーマとして取り組んだ。

<強化項目>

- ・魅力ある授業(楽しい・わかりやすい授業)
- ・挨拶・清掃(徹底・継続・やりきる)
- ・愛校心(アウトプットする環境・成長)

○目標数値としては、退学率 4.1%以下を目標とした。

<振り返り>

○退学率:目標 4.1%→5.2%

- ・昨年度に比べ取り組みが退学防止に繋がってきてはいるが、担任、教科担当教員との情報共有や保護者との連携、初期段階でのアプローチを強化していくことが必要。

<課題>

- ・クラス内での人間関係構築に向けてのアプローチ。(自分の居場所・安心感)
- ・生徒の目標設定や成功体験を通してやりたい事を見つけ、自己肯定感を伸ばす機会を増やす。
→成功体験(学校生活・外部活動)を通して自分がやりたい事を見つけていけるフォロー体制の構築が課題。
- ・退学率、出席率の低下防止に向けて、先を見越したアプローチを検討していく必要がある。
→多くの大人が関るキッカケを作っていく仕組み作りが課題。
(年度初めの統一認識・先を見越した年間計画)

<今後の改善方策>

2024 年度教務施策

- ・毎日の出席確認だけでなく、早期面談を設けることで出席率の向上と退学の防止に努める。
- ・指導注力項目を設定し、年間通して継続指導していく。学校生活振り返り(やる気継続シート)を毎月実施し、生徒自身による自己評価を振り返ることで“考える力”も養っていく。
- ・授業見学期間を設け「環境設定」「挨拶」「実技授業準備」状況を確認し、全体統一を図る。
- ・月間目標を設定し、学校全体で意識づけを行っていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

【大賀委員】

学生時代、職業や企業情報について、多くの先生方から話していただけた事はありがたかった。自分の様に沢山の事を教えてもらいながら、日々を過ごせると学習意欲に繋がるのではないかなと思う。前向きな生徒だけでなく、学生全体に職業の魅力が伝わると、学生の意欲が変わるのではないかな。自身の学生時代を振り返ると、現場実習が自身の進路を決めるきっかけとなった。当時私は、2年間実習に参加し、1年次と2年次で職種の違う実習に参加したことで、自分がどんなトレーナーになりたいか、進路に進みたいか、どんな職種が自分に合っているのかなど考えるきっかけにもなった。多くの生徒が現場実習に参加し、進路に向き合うきっかけが作れると良いと思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・学校の理念や教育目的、育成人材像は定められており、生徒への周知も行われている。節目節目の保護者電話連絡で生徒の状況は都度共有しているが、年度初めにお伝えしている教育理念や人材育成などは保護者が耳・目にすることは少ない。
- ・地域社会への貢献度を高めていく為にどのような活動を行うか、今後地域との連携が求められる中で地域との関係性を築いていくことは昨年度同様、課題となっている。

② 今後の改善方策

- ・新入生保護者説明会にて在校生が学校生活について話し、保護者に教育理念や人材育成像をよりイメージしていただく。また、入学後は新入生のホームルームでも在校生が話す機会を設定する。
- ・地域貢献していくために、外部指導実習では昨年度以上に地域の方にお越しいただけるよう、計画的に準備していく。また、外部の方と接することで小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を醸成していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【森下委員】

保護者とのコミュニケーションとして、日々の電話掛けを各担任が行っている。今年度より「褒める」ことを意識した電話掛けを実施している。また、専門学校と比べ高校分野は保護者と会う機会が多く、授業参観を実施してさらに保護者との関係を密にしている。現代の学生において、成功体験だけでなく、人のために何かをできる経験を積めるきっかけが少ないことが高校分野での課題である。高校時代からその様な事を行っていけると、更に成長のきっかけを作れるのではないかと。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・毎年様々な新規システムが本部より導入されているため、情報システム化による業務の効率化に取り組んでいるが、個々で活用しきれていない状況である。新規システムだけでなく、発信済みのシステムについても使用方法などの理解度については昨年に引き続き課題である。また、管理業務が膨大な教務事務については、業務のスリム化とスピードアップが必要と感じる。
- ・2024 年度に向け新しい人事制度へ移行される。それに向けての共通認識の強化。
- ・コンプライアンスの知識のさらなる強化。

② 今後の改善方策

- ・導入した情報システムツールの活用頻度を上げ、活用することが当たり前の環境を作り出す。また、活用しているシステムが生徒・講師・学校にとってどのような結果や変化に繋がっているのかを明確にし、定期的に職員会議にて検証していく。
- ・新人事制度の理解や認識を高める他の研修の実施。個別相談の機会の提供。
- ・コンプライアンス研修の実施。（オンライン＋対面での実施）

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【田原委員】

ビジネスにおいて基本、外部から送られてくるWEB書類ではパスワードが必ず設定されているが、社内の危機意識はまだまだ足りていない部分はあると感じる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・関連業界への進路決定率は高い状況を保っているが、学生が希望する業種への進路決定に至っていない状況もあるため、キャリア育成も含めた就職指導を展開していくことが課題。
- ・資格取得に向けた指導体制においては、受験対象学生への対策 WEEK を授業と連携して実施したが、対策授業への動機付けについては新たなアプローチが必要。
- ・インターンシップ実習を履修する生徒が減少し、学びをアウトプットしながら実践力を養う機会が少ない学生が増えてきていることが課題。

② 今後の改善方策

- ・2024年度より NESTA と連携し、就職指導においてキャリア育成を中心とした内容で展開していく。
- ・2025年度よりカリキュラムが大幅に改定され、現行カリキュラムと比べ実技科目の割合が増えるため、インターンシップ実習への参加促進と現場での実践力向上を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【大賀委員】

就職指導について、自身は明確な目標があったので就職対策に困ったことはなかった。しかし、目標が明確でない同級生の立場になると、就職対策以前に職種理解から始めないと就職活動に繋がらなかった同級生も多かった。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・主要資格の取得率は目標を下回る状況であった。長期的に多くの教員から資格に対する動機付けをしていくことで、受験に向けてのモチベーションを高めていく必要がある。
- ・就職する・させることが目的ではなく、就職後も見据えたキャリア支援をする意識の強化が課題。また、卒業後の勤務継続状況など連絡が取れない卒業生もいるため、企業と連携を図り、一層勤務状況やキャリア情報収集に力を入れることも必要。卒業後のキャリア支援は強化し始めているが、まだ薄いため強化することが課題。

② 今後の改善方策

- ・教科担当教員との連携を強化し、長期的に先を見越した動機付けを実施していく。
- ・就職支援においては、早期より多くの企業と接する機会を設けていく。業界研究、企業分析、自己分析期間に即した就職行事を開催していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【大賀委員】

学生時代、講習会に来られた先生から「資格は荷物にならない、まずは勉強をしてみる」という言葉を聞いて納得した。勉強をして損をすることはなく視野が広がり、できることも増える。学生時代に資格への取り組みが前向きになる事は、将来を広げるきっかけに繋がるのではないかな。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・課外活動(ボランティア活動)に関する支援体制は、ある程度整備されてきているが、課外活動を通して学生がコミュニケーション能力の向上、社会性を身につけ、小さな成功体験を積み重ねられるような連携が必要。
- ・ボランティア内容が学びの内容になるのか、主催者側の提案に対して検討する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・課外活動(ボランティア活動)については主催者側へ打ち合わせ等を通じて教育活動として参加している認識を深めていただく。
- ・卒業生との繋がりを強化していくために、卒業生情報の収集と企業訪問を活性化させていく。
- ・生徒の実践力の醸成を図るため、産学連携をしている企業を中心に、多くの機会(活動先)を構築していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【森下委員】

高校分野では、地域の方の清掃活動に参加している。地域の方とつながることで学園への理解も深めていただけた良いきっかけとなっている。

【田原委員】

江田島での健康福祉の活動を始めるにあたり各地域で、なぜ運動指導が必要なのか説明し、改善できるような様々な場所で高齢者向けの運動指導を行っている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・災害を想定した避難訓練の内容や頻度。ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化が課題である。
- ・学外実習においてはボランティア、トレーナー実習先の開拓が課題である。

② 今後の改善方法

- ・職員に対する避難訓練を実施し、安全面への意識を高めていく。また万が一の事態に備え、避難経路の確保については常日頃から点検を行う。また、ホームルームにて生徒へ避難訓練の意義や必要性を伝達する。
- ・学科の特性に合わせた実習先の確保。
- ・企業と連携し、現場が求めている人物像をキャッチし、実習前後の指導・アドバイスを実施していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【田原委員】

社内でも避難経路の確認や人命救助の確認を行った。学内で使用しているハザードマップがとても良いと感じている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

今後、本校入学希望者の大半を占める18歳人口が減少していく中で、学校の存続、および業界への安定した人材輩出を継続していくための方策を検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

コロナ禍を経て増加傾向が見られる、大学進学希望者・通信制高校からの入学者に対してのサポート体制について、教職員が統一認識を持って対応できるよう整えていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【森下委員】

18歳人口が減少してきている現在、大学は定員割れ、就職は求人が増えてきており、安定し始めている。スポーツ分野は高校生にとって職業イメージが湧きづらく、高校生の選択肢になかなか入りにくいように感じる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。

② 今後の改善方策

現時点で問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行う必要がある。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

保育園との連携活動で校舎を使用した体操教室を実施している。参加する園児や生徒の学習成果を高める為に今後も園との連携を強化していきたい。

② 今後の改善方策

- ・学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。
- ・地域の保育園の園児を対象とした体操教室を 2024 年度は年 6 回開催予定。
- ・外部指導で地域住民の方も多くご参加いただけるよう、広島市子育て支援サイト(イクちゃんネット)にて地域への説明や案内を実施していく。
- ・定期的に近隣清掃を実施し近隣住民の方との関係性を構築していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持っていない。

② 今後の改善方策

検討していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価より「地域貢献活動の促進」と「学びをアウトプットしながら実践力を養う」という事が今後のキーワードとなっている。地域との連携を深め、学習のアウトプットを行う活動を地域貢献と合わせて行う事で、双方のニーズを満たす事になる。また、健康寿命の延伸に向けて、医療とスポーツの連携も発展してきている動向を踏まえ、必要な学習領域の開拓も行っていく必要がある。現行のカリキュラム内でも一部では学びを行っているが、より深い学びが現場で求められているという事が分かった。今後のカリキュラム構成の参考にしたい。

本校の生徒の出身が広島とその隣県に限られていることを踏まえ、エリア特性を活かした人材育成や社会貢献への取り組みを進め、今後も着実に1つずつ形にしていくことも重要な課題である。